

## 「みなさんの優しさが私を助けてくれました」

私はどこにでもいる元気な普通の小学生でしたが、気づいたら頭と左耳の後ろにできものができていました。痛くも痒くもなかったのですが、念のため近所の皮膚科に受診すると京大病院を紹介されました。悪性ではなさそうだけれど手術をして切除した方がいいだろうと言われ、2005年6月に手術を行いました。

後日できものの精密検査の結果を聞きに再び京大病院を受診すると、誰も想像していなかった結果が待っていました。「できものに悪性のものが混じていたから小児科にまわってください」と言われました。小学六年生だった私は、ランドセルを持ったままわけも分からず小児科へ行きました。

検査入院をして詳しく検査した結果、私は「急性リンパ性白血病」だということが分かりました。入院生活が始まりましたが、私の体はいたって元気だったため一回目の治療ではなんとか持ちこたえられました。しかし、治療を重ねるごとに弱り、二回目からの治療後は自分の力だけでは回復できなくなってしまいました。

「輸血をします」と先生に初めて言われた時、私は輸血がどういったものなのかよく分かりませんでした。ただ、「怖い」という思いだけがありました。

輸血をすると拒絶反応がおこり、特に赤血球を入れた時は吐き気と高熱が続きとてもしんどかったのを覚えています。皮膚がめくれ、しんどさのあまり「輸血なんて嫌だ」と、痛い思いをして献血をして私を支えてくださっているみなさんに申し訳ないことを思ったこともありました。

今思うと、みなさんの「献血しよう」という優しい思いがわたしの命を助けてくれたのだと思います。みなさんの優しさ、応援がなければ今私はここにいないと思います。本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今はもうすっかり元気になり、今年の4月、私は看護学科に入学しました。みなさんに助けていただいたこの体で、将来は難病と闘う子供たちの役に立つ看護師になりたいです。

高橋真依



高橋真依さん(右)とお姉さん(左)

トップページ画像のけんけつちゃんクッキーは、高橋さんの手作りです。